

年明け早々、イスラム国による日本人の人質殺害事件など、悲しい出来事が続いています。世界中の人々が叡智をしぼり、少しでも平和な方向に向かうように祈らざるを得ません。さて、クリニック通信 22 号が出来ましたのでご一読ください。

### 院長ブログより 《ああ上野駅》

昨年7月のこととなりますが、北国への玄関口である上野駅が開業130周年を迎え、様々なイベントが行われました。

高度成長時代、東北地方から集団就職で上京してきた人々への応援歌として歌われた、井沢八郎の「ああ上野駅」が電車の発車メロディーでも使われたとのこと。



昭和39年にこの歌が世に出た当時、私はまだわずか6歳でしたが、幼少時を東京駒込で暮らしていた私は、上野駅を利用することも多く、またこの歌も父がときどき口ずさんでいたこともあり、なぜか懐かしい気持ちになるのです。

インターネットや携帯電話などももちろんまだ夢の世界で、カラーテレビさえまだ普及し始めたばかりのあの当時、少なくとも物質的には決して今のように豊かでも便利でもありませんでした。

それでも、私たち庶民はみな肩寄せ合って助け合って、楽しく明るく、まっすぐ前を向いて生きていたような気がします。

それは、日本が戦争の廃墟から立ち上がって高度成長期に入り、国民誰しもが明るい未来を夢みて高揚感に浸っていたから、ということもあるでしょう。

でも、そのことを差し引いても、当時の日本人は今よりももっともっと純粋で優しく、思いやりの心を持ち、道徳を守り、他人を敬い、忠義を尽くし、何事にも正直で誠実だったような気がするのです。

あの時代は、誰もがおせっかいで、誰かが困っていれば、自然に助け合うような社会でした。

地域には、怖いおばさんやおじさんがいて、私たち子供が悪いことをしたり、弱い者いじめをしたら、こっぴどく怒られました。それが自然に地域の子供たちの見守りになっていましたし、それに対して感謝こそすれ、文句をいう親などいませんでした。

地域の催し事や連絡事項は回覧板や電話網で知らせるのは当然でしたし、それを個人情報云々と騒ぐ輩もいなかった。

学校の先生は今よりもずっと威厳があって尊敬され、悪いことをしたら廊下に立たされることもしばしば。

私などクラス一の悪ガキとけんかして頭を数針も縫う大けがをさせたため、先生にびんたを食らわされた上に1時間くらい正座をさせられたことがあります。

先生には、悪いことは悪いと身を以て諭されたのです。私を殴った先生もきっと悲しかったでしょう。でも今なら、体罰だなんだとモンスターペアレントや教育委員会やマスコミが、やいやいと騒ぎ立て、先生は辞職に追い込まれるに違いありません。

いじめもなかったわけではありませんが、クラスのガキ大将的な子が睨みを効かせていましたし、一人を大勢で無視したりして

自殺にまで追い込むといったような陰湿なやりかたはあり得ませんでした。

勉強のできる子は一目置かれて学級委員に選ばれたりしましたが、算数や国語がさっぱりダメでもかけこだけは誰にも負けない子は、運動会ではクラスの皆のヒーローでし、演技や楽器のうまい子は学芸会が活躍の場でした。

作文で父母のことを書くときも、片親の子は先生がちゃんと配慮して他の人の作文を書くように指導していました。

でもこういったことを、今のように差別だ不公平だと騒ぐような親などいませんでした。

あの頃のサラリーマンは企業の歯車とか働きバチとか揶揄されるほど滅私奉公して働き、会社帰りに赤ちょうちんで飲むのが小さな幸せでした。でも一生懸命働けば小さいながらもマイホームを持てたし、今のようにうつ病になるような人もいませんでした。

いいか悪いかは別として、日本式の年功序列、終身雇用制度がよい意味で機能していたのです。



翻って、今の世の中はどうでしょうか？

ここ数十年で日本は世界に冠たる経済大国となり、人々は未曾有の豊かさを享受し、平和を謳歌しているようです。

文明の利器は驚異的な速さで進歩し、あの当時には想像もつかなかったであろう便利な社会になりました。私たちはまさに今、物質文明の頂点にいても過言ではないでしょう。

しかし、私たちはあの時代とくらべ、本当に豊かに、幸せになったのでしょうか？

今の世の中に蔓延しているのは、果てしのない物欲、個人主義に名を借りた権利意識や利己主義、平等と公平とのはき違え、義務や責任を果たさないのに自由ばかり声高に叫ぶ愚かな風潮、基本的な倫理感の欠如…そして社会全体を漠然と覆っている殺伐とした空気…

いったいこれはなんなのか？

あの頃はよかった、などという、嫌な顔をされるかもしれませんが、懐古主義と嫌味を言われるかもしれません。

それに今の日本はあの当時のような経済の高度成長は望むべくもなく、少子化、核家族化と超高齢化社会の到来で社会保障制度は死に体、失業者や非正規雇用者の激増で、国民誰しも自分が生きることだけに必死にならざるを得ない状態で、将来に言いようのない不安こそあれ希望などもてるはずもなく、ましてや他人のことにかまっている余裕などないのかもしれませんが。

それでもやはり、何かおかしいと思うのは私だけでしょうか？

なんでも他人のせい、社会や政治のせいにするのは簡単です。でもこういう世の中にしてきたのは結局国民ひとりひとり、つまり私たち自身なのです。

つまり、私たちは今のような便利で豊かな社会を作り上げた代わりに、とんでもなく大事なものを、日本人として、いや、人として大事なものを犠牲にしてしまったのです。

かつて栄華を極めたローマ帝国は、平和ボケしてしまった国民の墮落によって滅亡しました。

日本がローマ帝国と同じ轍を踏むのかどうか、いままさに、試されているのではないかと感じるこの頃です。

## 今月の話題 “あれから20年”

今年はその阪神淡路大震災から20年です。1月17日の早朝、参加した東遊園地の追悼行事、鎮魂と復興への祈りが込められたロウソクの光を見つめながらあの日に思いを馳せると、あふれる涙を止められませんでした。

当時西宮市に住んでいた私は、10歳を目前に控えた小学4年生でした。

5時46分。眠る私の耳にはっきりと聞こえたゴゴゴゴ…という不気味な音。「何の音だろう」と思う暇もなく、大きな揺れが襲いました。何が起きているのかすぐに理解できず、ただベッドの上で布団にしがみついていた。ガシャンガシャンというものすごい音は窓や家具の音ではなく、家そのものが揺れる音でした。

恐ろしい揺れが収まると、すぐに母の呼ぶ声がして飛び起きました。床に散乱した色々なものを踏む痛みに耐えながらよろめく体で必死に部屋を出ました。足の裏でジャリジャリと音を立てる、壁から落ちた沢山の土材。家が歪んで開かない玄関のドア。「お父さん開かないよ！」半泣きで叫ぶ私。父がドアを蹴破って外へ飛び出すと、冷たい間に漂うガスの臭い。暗闇に目が慣れ、道路に倒れた大きな塊が倒壊した家だと分かった時の戦慄は忘れられません。避難先の小学校、暗い寒空の下私は寒さと恐怖でずっと震えていました。不安と絶望の中、自分にとっては一番安全で、絶対的な場所である家が壊れるなど信じられませんでした。

ようやく学校の中に入れる頃には空が白んでいました。私と姉を校庭に残し、崩れかけた家に荷物を取りに帰った両親が戻ってくるまでの時間は果てしなく長く、地震の瞬間よりも恐怖でした。すぐに陽が落ちる冬、体育館は真っ暗で、長い長い夜の始まりは不安でしたが、突然ついた体育館のライトに人々から歓声があがりました。普段当たり前についている電気がこんなにもありがたいものなんだ、そして家があること、水が出ること、食べ物があること、学校で勉強ができること、友達に会えること、毎日の全てが“当たり前”ではなく尊いものなんだと気づきました。

小学校全体で5人の児童も犠牲になり、死というものが自分には無関係でないことをも突きつけられました。

あれから20年、私は当時の両親の年齢に近づいています。当時子供だった私は私なりに大変で辛い思いをしましたが、2人の娘を抱え家が全壊した両親は、きっともっと大変だったろうと思います。そう考えると、もっと自立して家族や周りの人たちに気を配れる人間にならなければならない、そして薄れていく記憶の中で、普段から防災・減災の意識を持ち、取り組んでいくことが生き残った私たちの使命であり、また、今ある平穏な“当たり前”の毎日に感謝の気持ちを忘れてはならないと思います。

皆さまは20年目の1月17日をどのように過ごされましたか？

(看護師 TE より)

## じむこらむ ⑩今年の“いい漢字”

毎年その年の世相を表す漢字一文字を一般公募し、12月12日に京都の清水寺で発表があることをご存知の方も多いかと思います。私も偶然に昨年11月末に学生時代の友人と京都を訪れる機会があり、これに公募しましたが、見事に外れてしまいました。昨年を表す数字は「税」となりましたが、皆様はこれをどう感じられましたか？

新しい年を迎え一歳年を取るごとに、自分の身体や自分を取り巻く環境の変化を大きく感じるようになりました。

それを感じるからこそ、我が家も大晦日にその一年を振り返って、家族ひとりずつ“自分の一年”を表す漢字一文字を書き、それをノートに残すことにしました。これを毎年継続することによって、五年後十年後に振り替えるのが楽しみです。

皆さんも“いい感じ”な一年を過ごして、年末には“いい漢字”を書いてみませんか。



(事務スタッフ MT より)

## お知らせ

花粉症の方々にはつらい季節ですね。マスクなどによる対処に加え、早めに薬を使うといいと言われています。抗ヒスタミン薬などの西洋薬に加え、小青龍湯などの漢方、点鼻薬、点眼薬もありますので、遠慮なくお申し付けください。

☆クリニック通信のバックナンバーをご希望の方は、受付でお申し出ください。  
院長ブログはHPからリンクしていますので、他のブログもぜひご一読ください。

おおかど循環器科クリニック

循環器科・呼吸器科・外科

院長 大加戸彰彦

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通 7-1-13 神戸芸術センタービル内医療モール 4F

TEL 078-855-9151 FAX 078-251-5033

e-mail aki-ohkado@ohkado-heart-clinic.com

HP <http://www.ohkado-heart-clinic.com>

診察時間 午前9～12時・午後4～7時 木・土曜日午後、日祝日は休診